

各 位



平成 18 年 5 月 17 日
会社名 長野日本無線株式会社
代表者の 代表取締役社長
役職氏名 田中章博
(コード番号 6878 東証第 2 部)
問合せ先 総務広報部長
竹内利直
(TEL 026-285-1205)

中期経営計画について

当社は、中期経営計画「Innovate NJ 2008」を別紙の通り策定いたしましたのでお知らせいたします。

以 上



Innovate NJRC for 2008

中期経営計画

Innovate NJ 2008

事業力の強化と企業体質の変革

2006年 5月

長野日本無線株式会社

目次



- 1. 経営理念とビジョン
- 2. 変革・成長へのマイルストーン
- 3. 経営再建計画の総括
 - 3.1 業績の推移
 - 3.2 重点施策の結果
 - 3.3 まとめ
- 4. Innovate NJ 2008の骨子
- 5. 事業戦略
 - 5.1 基本戦略と重点施策
 - 5.2 事業展望
 - 5.3 重点事業
 - 5.4 育成事業
- 6. 生産戦略
 - 6.1 基本戦略と重点施策
 - 6.2 生産体制と主要課題
- 7. ガバナンス戦略
 - 7.1 基本戦略と重点施策
 - 7.2 企業改革活動(BS活動)
 - 7.3 生産革新運動(6S活動)

1 . 経営理念とビジョン

経営理念

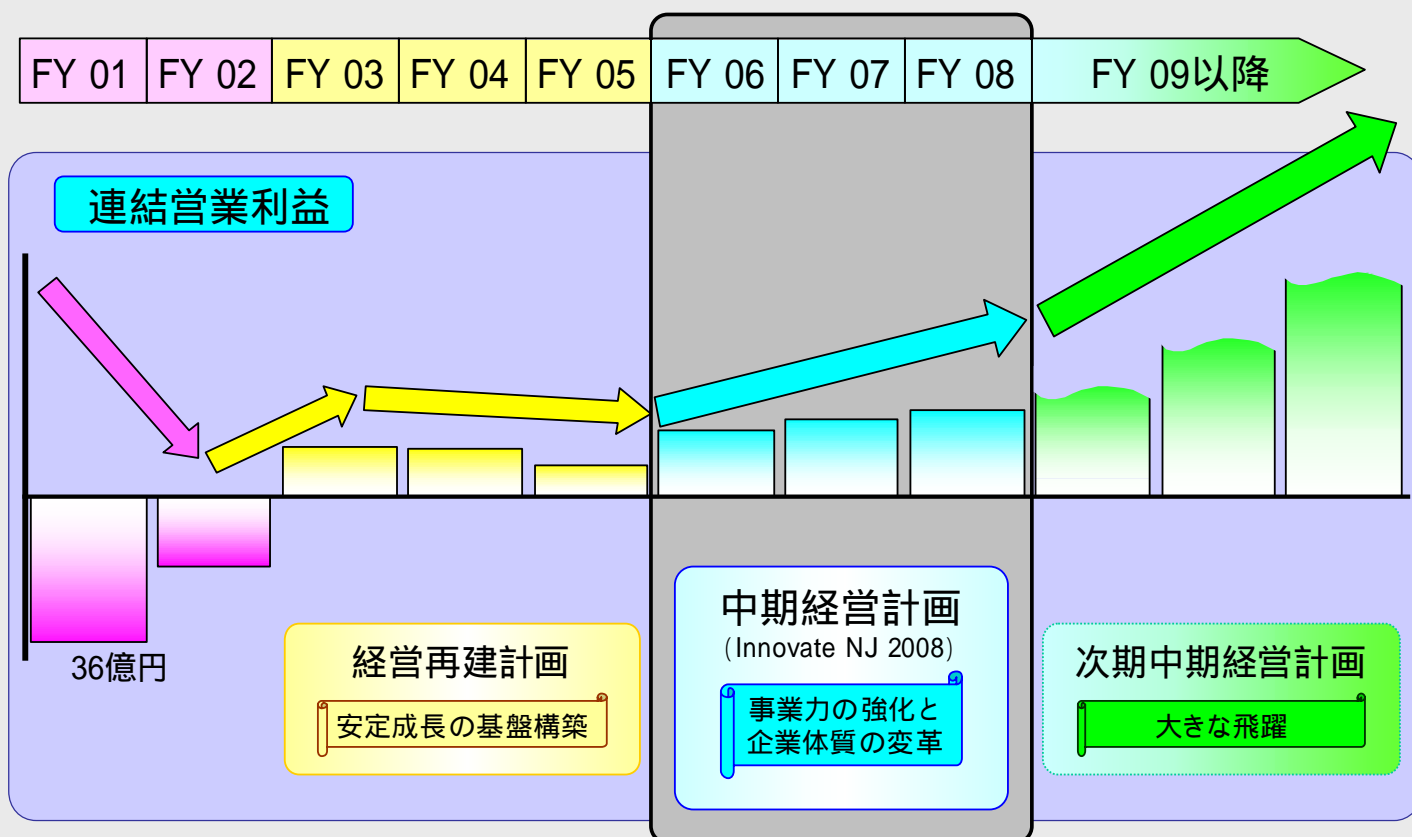
長野日本無線は、豊かな自然を背景に、技術革新に努力し、生産活動を通じて広く社会に貢献する。

ビジョン

“新しい価値”を提供する信頼のパートナーへ

当社に係わるあらゆる人々との深い信頼の絆で結ばれた、新しい価値を提供する信頼のパートナーを目指し、お客様価値の創造と、夢や感動あふれるモノづくりに邁進いたします。

2 . 変革・成長へのマイルストーン

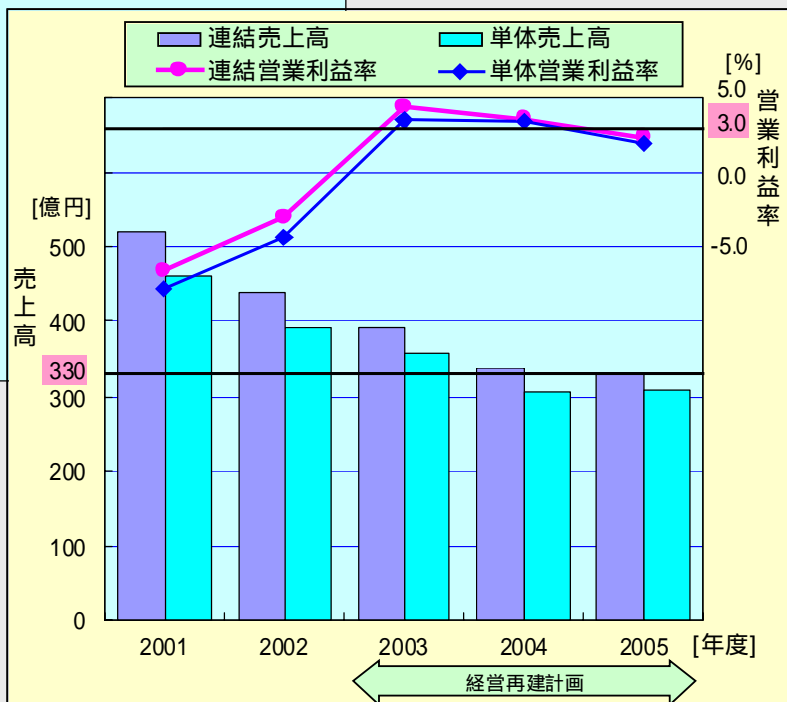


業績の回復

再建計画目標(単体) :
売上330億円規模で営業利益率3%以上

売上高:
事業の再編により減少
(ABS事業の営業譲渡等)

営業利益:
高コスト体質の是正により
大幅に回復



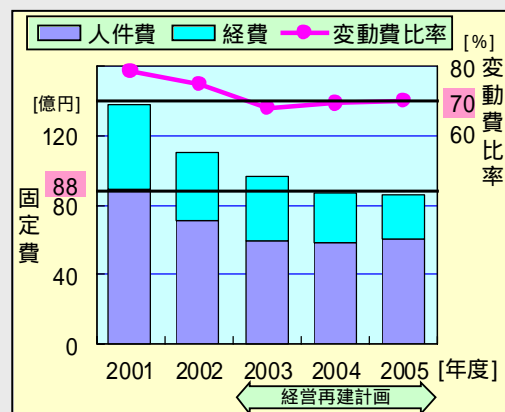
コスト削減

再建計画目標(単体)
固定費: 88億円、変動費比率: 70%

固定費: 諸施策の完遂により大幅削減

- 人件費: 01年度比 3割削減
(早期退職制度の導入、退職金制度の変更、他)
- 経費: 01年度比 5割削減

変動費: 不採算機種種の整理、内作の推進、コスト管理の徹底等により低減

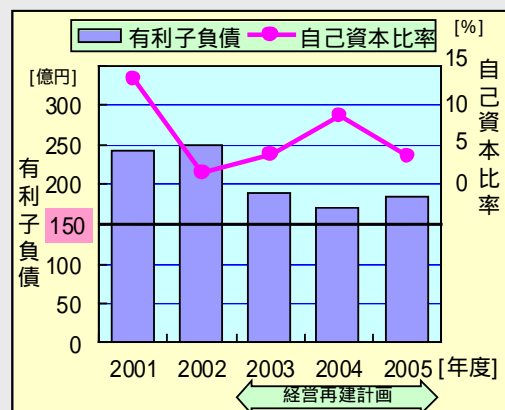


財務基盤の強化

再建計画目標(単体)
有利子負債: 100億円削減

有利子負債:
キャッシュ・フロー改善により削減するも、05年度の特別損失の発生により目標は未達

自己資本比率:
資産圧縮、利益の確保、増資により改善するも、資本は05年度の特別損失の発生により減少



1) 収益力と強固な財務基盤の構築の観点

事業の再編、事業構造の改革、高コスト体質の是正により、収益基盤を構築した
 資産圧縮と有利子負債の削減を実施したが、特別損失の発生により財務体力に課題を残した



安定成長の基盤を構築できた

2) 更なる利益の創出の観点

製品価格の下落と付加価値の減少が、収益を圧迫した
 成長市場をターゲットとしたアライアンスによる新事業や、保有技術を核とした自主商品が育ち、新たな展開を含め、今後の業績への貢献が期待される



新事業・新分野の開拓は途上

3) 今後の課題

量産品を中心としたコスト競争力の強化
 新事業・新分野への展開の加速(収益の拡大)
 リソースの最適配分と最大効率化の追求(生産性の更なる向上)
 リスク管理体制の強化と意識改革



事業力の強化と企業体質の変革が必要

4 . Innovate NJ 2008の骨子

基本方針

収益の向上を目指し、事業力の強化と企業体質の変革を遂げる

計数目標

連結指標	2005年度実績
売上高	332 億円
営業利益	7.7 億円
(営業利益率)	2.3 %
経常利益	3.4 億円



2008年度目標
380 億円以上
19 億円以上
5 %以上
14 億円以上

単体指標	2005年度実績
売上高	309 億円
新事業比率	10 %
営業利益	5.9 億円
(営業利益率)	1.9 %
経常利益	3.1 億円



2008年度目標
360 億円以上
30 %以上
18 億円以上
5 %以上
14 億円以上

基本戦略

事業・企業体質・人財のバランス成長

事業戦略

既存事業を基盤に新たな事業領域を「情報・通信」、「メカトロニクス」、「電源・エネルギー」とした新事業・新分野の拡大

生産戦略

リソースの最適配置と最大効率化による生産性の向上
新事業に対応した製造技術・設備の拡充

ガバナンス戦略

CSRと内部統制の強化
意識改革と現場力の向上

5 . 事業戦略

5.1 基本戦略と重点施策

基本戦略

既存事業を基盤に新たな事業領域を「情報・通信」、「メカトロニクス」、「電源・エネルギー」とした新事業・新分野の拡大

新事業・新分野の拡大

新たな事業領域へのシフト

重点施策

事業資産のシナジーを追求したアライアンスの拡充

新事業は、重点事業と育成事業を選定

- 重点事業：新事業の中核へと拡大
 - ICT、環境、クルマの成長市場
 - 経営資源を重点配分
- 育成事業：成長への基盤固め
 - 無線技術を応用する分野
 - 現在の事業領域に縛られない展開を加速
 - 専任組織による基礎研究とマーケティング

既存事業は、強みを活かした重点指向による競争力の強化

アライアンス(協業)の拡充

重点事業への優先投資

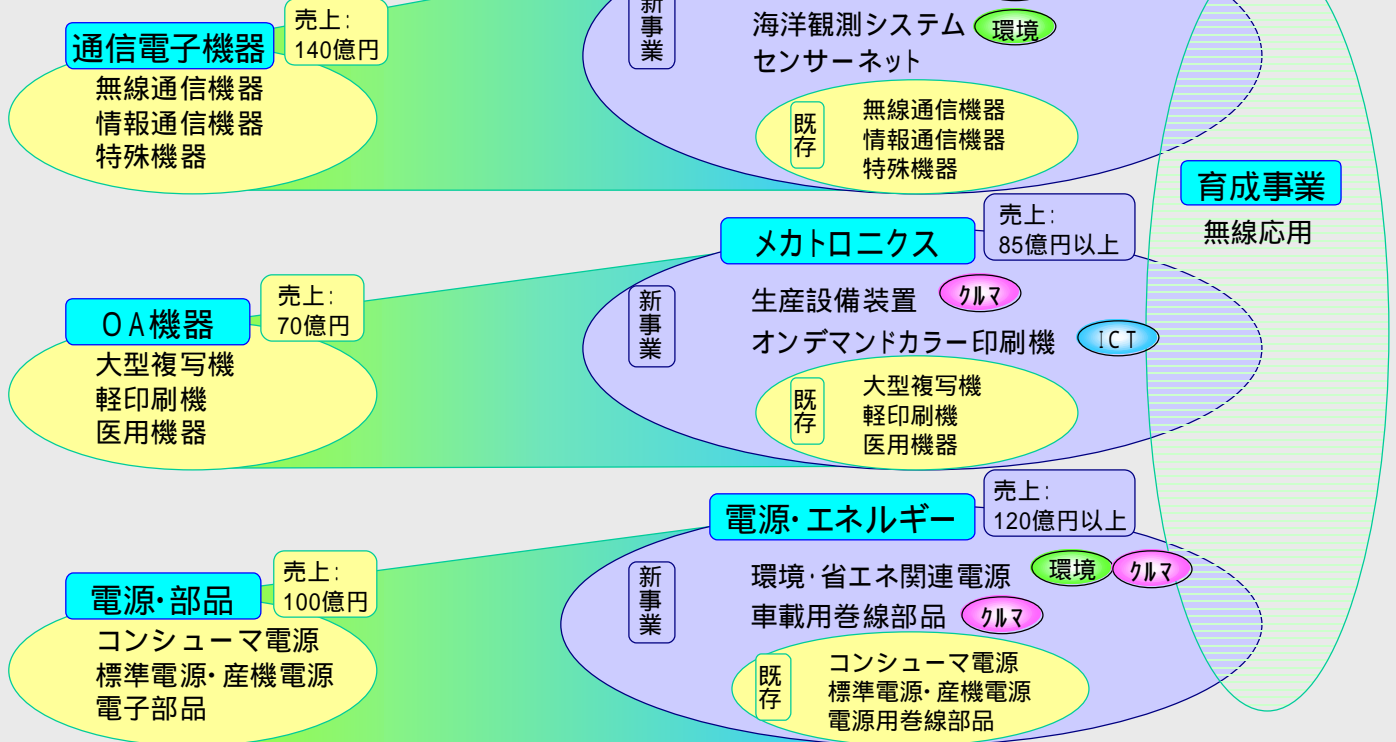
育成事業の基盤固め

重点指向と競争力の強化

印は、重点事業

Innovate NJ 2008

現状



情報端末

ICT

クルマ

ターゲット市場

- 業務用携帯情報端末
- 車載用情報端末

事業規模

2008年度売上高: 40億円以上

市場競争力の源泉

- インテル社との提携 (Technical Rep.)
- マイクロソフト社との提携 (Gold Partner)
- 無線通信技術
- 映像処理技術
- 量産技術
- 高密度実装技術
- 販売チャネル (アライアンス)

重点施策

- デバイスベンダーとのアライアンスの推進
 - コア技術の先行取得と製品への早期応用
- マーケティング力と商品企画力の強化
 - アライアンスによる商品の共同開発

開発方針

- ハード/ソフトの標準コアの確立
- 市場トレンドを先取りした製品の短期開発

主要製品

- 業務用携帯情報端末 (発注・在庫管理、物流管理、車両運行管理、電子野帳、他)
- ドライブレコーダ

生産設備装置

クルマ

ターゲット市場

- 産業用生産設備装置
 - 車載用電装品・半導体・理化学

事業規模

2008年度売上高： 30億円以上

市場競争力の源泉

- メカトロの設計・製造技術
 - 板金部品による軽量化設計
 - 高速・高精度搬送技術
 - XYZ軸の高精度位置決め技術
 - 高速モータのリアルタイム制御技術
- アライアンス(共同開発)

重点施策

- 開発と生産の専任体制の構築
 - 技術者の増強
 - 生産体制の構築
- 製造設備に加え検査設備へ展開

開発方針

- 小型・軽量化の追求
- 高速化の追求

主要製品

- 自動組立装置
- 搬送装置
- 分注装置

環境・省エネ関連電源装置

環境

クルマ

ターゲット市場

- 無停電電源装置
- エレベータ(エネルギー回生)
- クリーンエネルギーの電力貯蔵システム
- 自律電源
- 電動車
- 屋外照明用器具、屋外照明用電源

事業規模

2008年度売上高： 20億円以上

市場競争力の源泉

- 高効率スイッチング電源技術
- 充放電制御技術
- 電池メーカーとのアライアンス
- イコライザ関連特許の保有
- 放熱設計

重点施策

- 事業推進プロジェクト(開発と販売)の編成
- コア技術と市場競争力の早期確立
 - 照明分野： 商品企画力と販売力の向上
 - エネルギー分野： 電池周辺の技術向上
- インバータ市場への進出

開発方針

- インバータ技術の確立
- LEDサイン用電源の大電力品のラインアップ
- 電池の周辺機能の拡充

主要製品

- 組電池(リチウムイオン2次電池)
- 自律電源
- インバータ内蔵型屋外看板用蛍光灯ホルダ
- LEDサイン用電源

方針

保有技術の新たな市場(用途)の探求と更なる差別化
コアコンピタンスの追求

市場競争力の源泉(コア技術)

- 無線通信技術
- 高周波回路技術
- 高周波製造技術

コア製品

- 海洋観測レーダ
- 高周波プラズマ用電源
- マイクロ波AMPモジュール

ターゲット市場

- 次世代無線情報通信
- レーダ応用のリモートセンシング
- 半導体製造装置
- 素材表面改質装置
- 殺菌・滅菌装置
- 無電極照明装置
- その他

基本戦略

リソースの最適配置と最大効率化による生産性の向上

新事業に対応した製造技術・設備の拡充

生産性(質・量・コスト)の向上

製造技術・設備の拡充

重点施策

グループ(製造子会社)の全体最適の追求

生産革新運動の推進(6S活動の継続)

- 生産方式の最適化
- 在庫の最適化

中国工場の生産能力拡充

- 資材の100%海外調達
- 生産設備の増強

製造技術の向上

- 新たな技術の開発
- マイスター・多能工・後継者の育成
- 環境に配慮したモノづくり

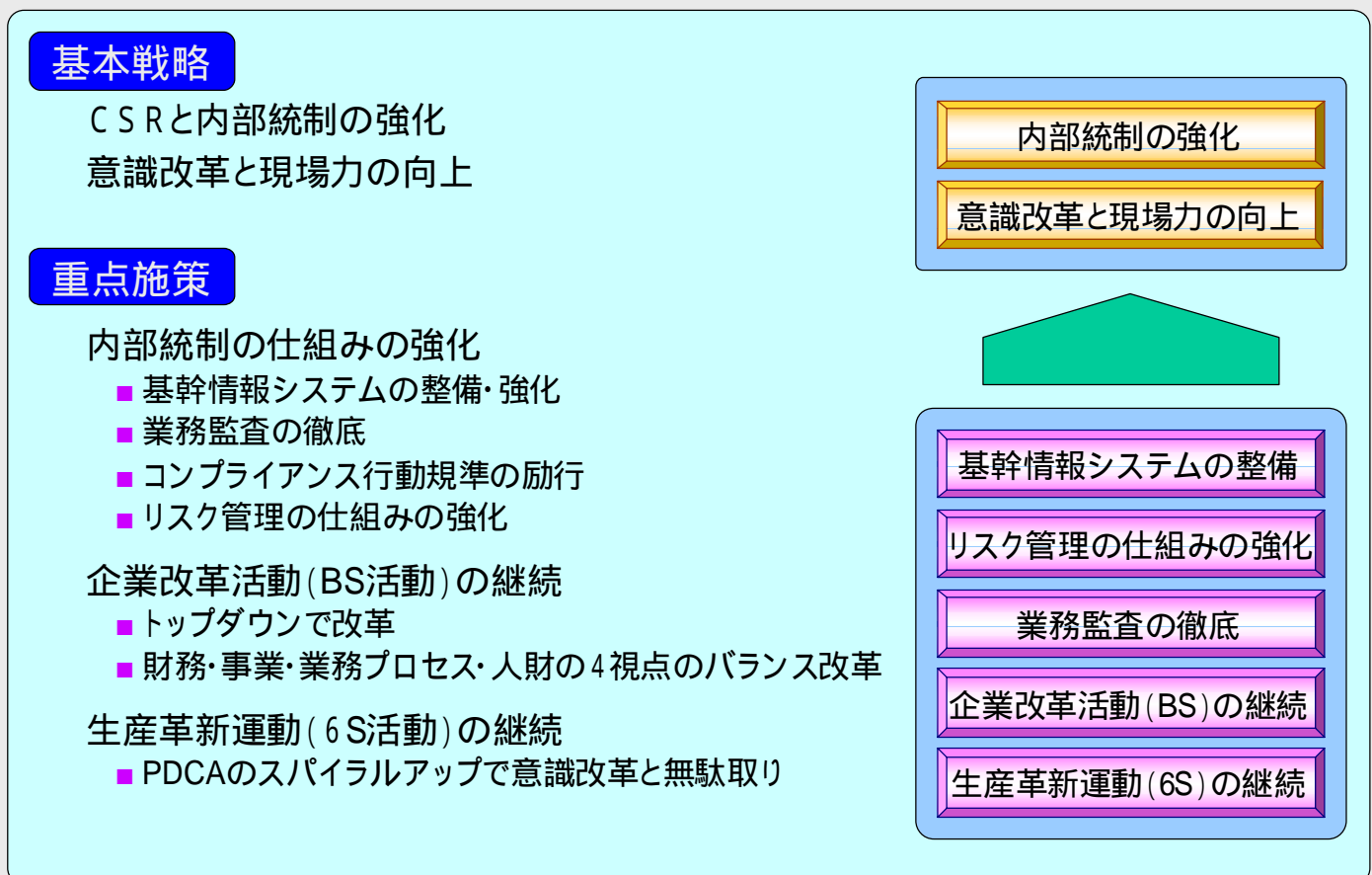
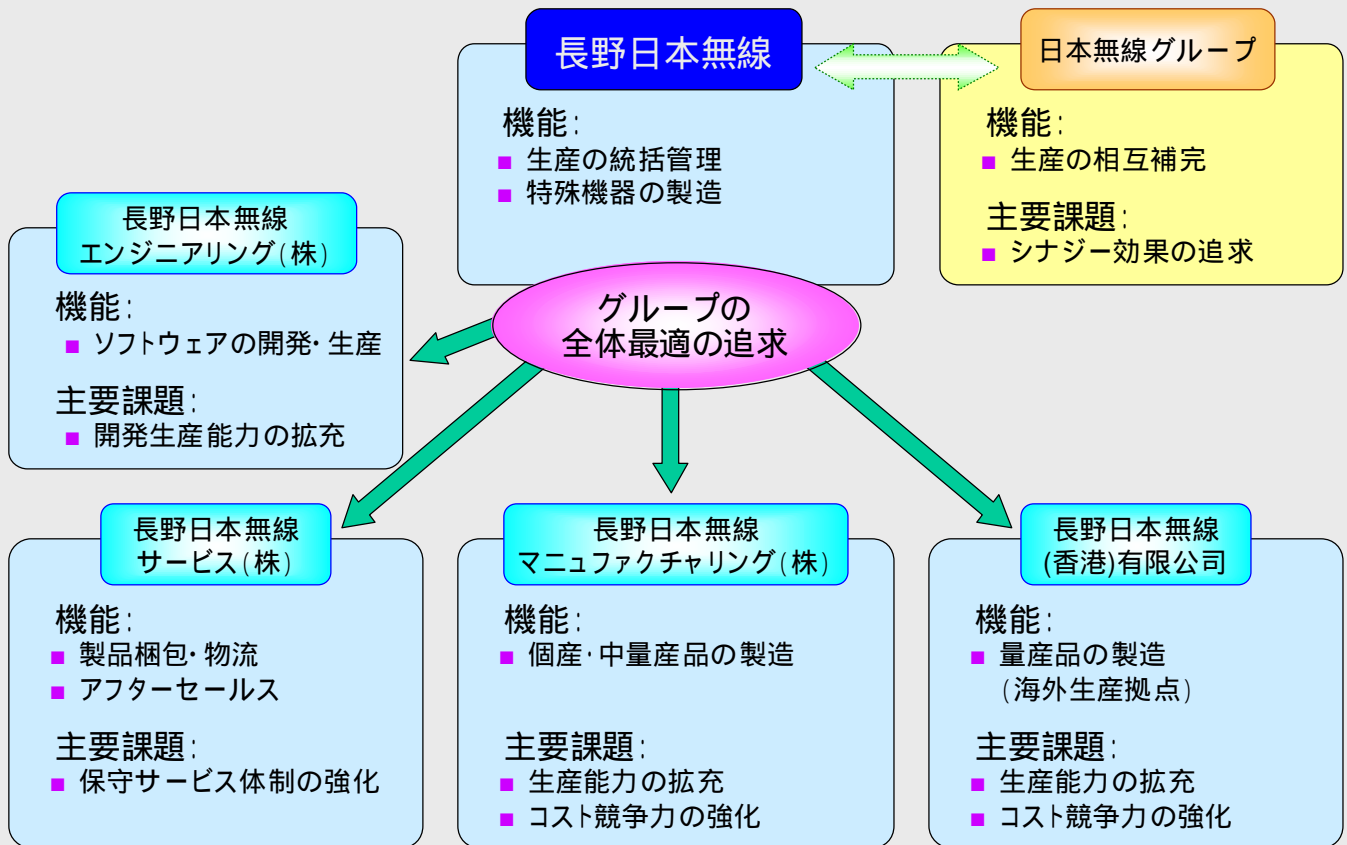
グループの全体最適の追求

生産革新運動(6S)の継続

中国工場の生産能力拡充

新たな製造技術の開発

マイスター・多能工の育成



全体最適を追求した企業改革を、絶え間なく断行(枠組みは導入済み)
 独自の4視点で、バランスのとれた改革・成長を目指す
 部門横断のチームを編成し、トップダウンで課題に取り組む

BS活動の 4視点

財務の視点

テーマ: ステークホルダーからの信頼

主要課題

自己資本比率の改善
 純利益とフリーキャッシュフローの増大

事業の視点

テーマ: 事業資産のシナジーと新たな挑戦

主要課題

アライアンスの拡充による新事業・新分野の開拓

業務プロセスの視点

テーマ: QCDの差別化

主要課題

Zero Defectの追求
 リードタイムの短縮

人財の視点

テーマ: チャンスを与え活気と変革

主要課題

人財の育成と能力開発(現場力の向上)
 成果と報酬意識の浸透

モノづくり企業として、生産革新運動(6S活動)を継続

- 整理・整頓・清掃・清潔・躰・習慣の6つのS
- 習慣は、5Sを継続的かつ発展的に行うPDCAのスパイラルアップ

身の回りの改善から、業務の改善、仕組みの改善へ
 意識改革と無駄取りを促進し、利益を生み出す企業
 体質へ変革

利益を生み出す企業体質

モノづくり企業

PDCAの
スパイラルアップ
で無駄取り

仕組み

整理 躰
 整頓 清掃
 清掃 清潔

業務

整理 躰
 整頓 清掃
 清掃 清潔

身の回り

整理 躰
 整頓 清掃
 清掃 清潔

習慣

時間と空間の間詰め

異常の早期発見

会社の仕組みの改善

業務の改善

身の回りの改善

“新しい価値”を提供する信頼のパートナーへ

長野日本無線株式会社

URL <http://www.njrc.jp/>

注：本資料に記載の内容は、種々の前提に基づくものであり、将来の計画
数値や施策の実現を確約したり、保証するものではありません。